

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2017年3月10日

No.12

これまでの努力に応え賃金引上げを実施せよ！

～2017 JR 総連春闘 第4回交渉報告～

中央本部は本日10時00分より「第4回賃上げ交渉」を行い、会社は今春闘における現時点での考え方を以下の通り明らかにしました。

- ①3月に入りコンテナ・車扱いともに必達目標を下回る状況であるが、落ち着き見込みとして鉄道事業部門の黒字化については達成できる状況である。
- ②これまで「3つの経営改革と3つの構造改革」を取り組んできた結果、今後の事業運営への基礎は出来たと考えている。来年度は新中期経営計画初年度であり、鉄道事業部門の黒字化の継続をメーンに取り組むことで貨物会社の更なる変革を続けていきたい。
- ③来年度は線路使用料・動力費・一般修繕費などの費用増が想定されることから、更なる努力が必要である。会社として検討した結果、定期昇給4号奉は実施するが、ベースアップについては実施できる状況にはない。今後も引き続き諸要求やその他の項目について協議していきたい。

「我々はベア実施・昨年の積み残し 55歳賃金ダウンの改善にこだわる！」

中央本部は会社の回答に対し、以下の通り強く指摘しました。

- ①この間組合員は汗を流し、時には血をも流しながら会社の言う改革を実行してきた。会社が示した考え方には、これまで努力した組合員にどう報いるのかが一切触れられていない。来年度以降も我慢しろということか。努力してきた組合員を馬鹿にするものだ。
- ②社長は一旦区切りをつけると明言してきたが、交渉を積み重ねてきた結果がこの回答では組合員は会社に対して失望し、退職などに向かってしまう。今必要なのはこれ以上の人材流出を食い止めるための手立てであり、そのためにも具体的な人への投資を行わなければ労務倒産が現実的なものとなる。
- ③今年度相当な苦勞をして黒字となったが、苦勞に報いる措置もなく今後も協力しろと言われても冗談ではない。職場の現状に経営陣は真摯に向き合うべきである。17年連続ベアゼロという深刻な事態を会社は当然と考えているのではないか。
- ④鉄道事業の黒字化が達成できる状況で4回の交渉を積み上げ、定昇4号奉の実施のみでは納得出来ない。
- ⑤我々はベア実施、昨年の積み残し課題、55歳以降の賃金ダウンの改善についてこだわる。今度は経営陣が覚悟と決意を示す時であり、人への投資を具体的に行なうべきである。再考し、社員の切実な想いに応える回答を示すこと。

組合の指摘に対して会社は「指摘は真摯に受け止め、今後も回答指定日にむけて議論を継続していきたい」と回答しました。

会社は本日の交渉において「人」への投資を行なう考えを具体的に示しませんでした。このことは、職場で真面目に働く組合員のこれまでの努力や苦勞を無視するものであり絶対に認められません。

2017 JR 総連春闘の勝利に向けて、中央本部は職場で働く組合員の想いに応えるため、回答指定日にむけてその最先頭で奮闘していくことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は3月17日（金）です。

以上